

目指す学校像	人生 100 年時代の土台づくりとして「世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子」を育成するためにチームで支援する学校
--------	--

重点目標	1 ゆめの実現のためのシン・学力の育成 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制・生徒指導の充実 3 コミュニティ・スクール5年目による地域・保護者との更なる連携 4 誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる教職員の資質向上と働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○ギガ端末を使って調べたことを整理し、まとめ、プレゼンすることに意欲的な児童が多い。 ○本校の実態に合った学年内教科担任制が定着してきた。 ○R4 全国学力・学習状況調査の結果は前年度より下がった。 ○各教科が「好き」を選択する割合が市平均と比較して低い。 ○「外国のことをもっと知りたい」と思う割合は市平均より低い。 〈課題〉 ○短時間で中文の文章を読み取り、問題の意味を理解する力に課題がある。 ○学びの楽しさを実感するまでに至っていない。 ○外国への関心が学年によってばらつきがある。	・シンの学力向上に向けた学ぶ楽しさを実感する探究型授業の実現  ・ワクワクする教科横断的な教育課程の編成	①全学調、市学調を全職員で分析し、昨年度以上を目指すための具体策を協議する。2学期以降具体策を実施し、実施状況を全体で共有する。 ②全職員が PBL 型授業、探究型授業の研究をし、管理職が全学級を計画的に参観し、学びの楽しさを実感させているかの視点で指導・評価する。  ①教科横断的にワクワクする事業を実施し学びの関心を高める (金融経済教育 / 若田飛行士関連事業 / STEAMS TIME 「Pepper くん」の活用/ICT を活用したコロラド州との異文化交流/水泳学習の民間委託) ②各学級、分掌が工夫し、世界に目を向ける活動を取り入れる。	①市学調でシンの学力が昨年度より向上したか(国語・算数4, 5, 6年の比較、6年のみ理、社会) ②市学調で教科の「好き」の割合が昨年度以上 (昨年度市平均以上は22項目中5つ) になったか。  ①行事実施後の児童・保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上となったか。 ②市学調で「外国のことをもっと知りたい」が全学年、市平均と同程度となっているか。					
2	〈現状〉 ○いじめの早期発見、早期対応、組織対応の取組が定着してきた。 ○昨年度、校内のけがの件数が1.6倍に増えた。 ○市学調で「自分には良い所がある」の質問に肯定的な回答をした割合は4つの学年で市平均を下回った ○登下校の安全は地域ボランティアに頼っている。 〈課題〉 ○児童自ら危険を予測したり、回避したりする力を育む必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実  ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成	①保護者に向けて懇談会や本校 HP、各種発行物等を通していじめに関するメッセージを発信し、いじめ方針や対応を周知する。 ②生徒指導・教育相談に係る校内委員会で ICT を効果的に活用し、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ①校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、児童と結果を共有し、ケガの発生を抑える。 ②時代を鑑み、児童引き渡し訓練、不審者対応訓練、学校警備員の防犯体制の随時見直しを図る。	①学校評価アンケートで保護者、児童のいじめに関する項目が昨年度 (保護者 82.4%、児童 88.5%) 同程度以上となったか。 ②教員アンケートでいじめや長欠に関する校内委員会での組織的な対応で、肯定的な回答が80%以上となったか。  ①児童アンケートで、「以前より安全を考えて行動するようになった」と回答する児童90%以上であったか。ケガの件数が昨年度 (1520件) より減少したか。 ②保護者アンケート、教職員評価で8割以上の肯定的評価であったか。					
3	〈現状〉 ○SSN は昨年度に再始動したが、新たな学校応援団としての活動には結びついていない ○学校運営協議会の熟議で、地域の教育資源である「東大宮音頭」を教育課程に位置付け、全校で取り組んでいる (2年目) 〈課題〉 ○SSN の活動に見える化を進める。 ○熟議の中で出た地域の人が定期的に学校に来る仕組みの具体化を進める。	・コミュニティスクール「成熟ステージ」に向けての学校応援団の充実  ・目指す児童像を地域全体で共有するための ICT 活用	①学校運営協議会の熟議を通して様々な形の学校公開を再開し、地域に応援される学校を構築する。 ②SSN の活動が共有できるホームページを作成し、各団体が学校応援団として機能する。  ①ホームページ作成システム刷新に伴い全学年が更新に携わる。(ホームページの毎週更新) ②Forms を活用し、すべての学校行事係るアンケートを実施し、PDCA サイクルに生かす。	①学校公開、地域の人が学校に来る活動等の具体案の策定もしくは自治会と連携した取組事例。 ②SSN による学校支援活動が新規に行われたか。保護者アンケートで SSN, CS の認知度 (昨年度 82%、74%) の肯定的評価が昨年度以上となったか。  ①保護者による学校評価アンケートに関連する項目の肯定的回答が90%以上となったか。 ②保護者の意見をまとめ校内で検討し、次の行事等に生かしているか。また内容によっては早急に対応しているか。					
4	〈現状〉 ○ICT の活用や探究的な学びについて、意欲的な教員が多い。 ○様々な業務改善を進め、教職員の士気も高まっている。 〈課題〉 ○GIGA 端末の活用は大いに進んでいるが、学級差もある。 ○時間外在校時間の減少が停滞している ○通学班編成を一部の教員が担っている (見沼区では本校のみ)	・教職員の ICT 活用能力の向上と子どもたちと向き合う時間を確保するための働き方改革	①エヴァンジェリストを中心に ICT 活用の日常化を図る (連絡帳の Teams 移行、各種説明会のオンライン化、ドリルパーク等の活用) ②業務改善を図る (通学班編成の保護者移譲、集金業務のキャッシュレス化完成の年、計画的年休の取得、通知表業務の負担軽減、水泳業務の民間委託)	①GIGA 端末を「ほぼ毎日活用している」と回答した児童の割合が市平均以上になったか。 ②学校評価の職員による「働き方改革」に関する項目、及び業務の負担感軽減に関する項目で肯定的な回答が8割以上となっているか。					